

くるまの  =3 
ざっがく
 CAR TRIVIA

このコーナーではクルマに関する
 為になる雑学をご紹介します。
 意外と知らないことがあるかも!?



事故の要因には様々なものがありますが、その中でも特に最近注目されているのが「アクセルとブレーキを踏み間違えてしまった」というものです。アクセルとブレーキは形状も位置も異なりますし、普通に運転をしている分には踏み間違いなど起こらないはずですし、そういった経験のないドライバーにとっては信じがたい話だと思います。しかも、事故を起こしてしまった当の本人にはアクセルとブレーキを間違えてしまったという認識がないことが多く、「アクセルが戻らなくなってしまった」などとクルマの不具合を主張したりします。いったいなぜ、こういった事故が起きてしまうのでしょうか?

1



高齢者に多いイメージだが、実は若者に多い?

アクセルとブレーキの踏み間違いという、どうしても認知機能が低下した高齢者に多いというイメージがあります。しかし、年齢別のデータを見てみると、実際にアクセルとブレーキの踏み間違いで事故を起こした人の割合は、20代が22%と一番高く、70代は17%、80代は10%となっています。このデータを見る限りにおいては、アクセルとブレーキの踏み間違いによる事故は高齢者に特有のものではなく、若い人であっても起こしてしまう可能性は十分にあるということになります。

つまり、高齢となり認知機能が衰えることによってブレーキとアクセルを踏み間違えてしまうといったような、単純な理由では片づけられない問題がここにはあるのです。「アクセルとブレーキを踏み間違えるなんて、私はそんなミスは絶対にしない」と運転に自信満々のあなたも、決して他人事ではありません。年齢や認知機能とは関係なく、人間の脳というのはパニックになると大きな勘違いをしてしまうことがあり、そのことによってブレーキとアクセルの踏み間違い事故が起きてしまうのです。



2

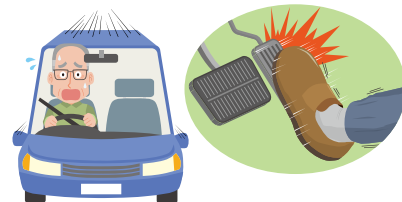


駐車場などからの発進時に一番多く発生する

アクセルとブレーキの踏み間違いによる事故は、駐車場などの発進や停止のときに一番多く発生するようです。コンビニの駐車場と店舗のあいだに、頑丈なガードが取り付けられているのを目にするのも多いと思いますが、そういった対策が必要なほど駐車場からの発進や停止のときの事故は多いということです。過去には、立体駐車場を飛び出して、車が高所から落下してしまうという悲惨な事故も何度か起きています。いったいなぜ、駐車場から発進や停止をする際に、アクセルとブレーキを踏み間違えてしまうのでしょうか?

理由① 後方確認時に気がつかないうちに足の位置がずれてしまう

アクセルとブレーキはすぐ隣の位置にあり、しかも同じ右足で操作をすることになります。なんらかの原因で足の位置がずれてしまうことで、ブレーキを踏んだつもりが実際にはアクセルだったということが起こり得るわけです。バックで駐車しようとするときなどは、後方を確認するために不自然な姿勢をとることも多いと思います。そういった際に、自分でも気がつかないうちに足の位置がずれてしまうということが起こります。



理由② 止まるつもりで踏んだペダルで加速してパニックになる

AT車の場合はクリーブ現象というものがあり、Dレンジやバックに入ったままだとアクセルから足を離しても、車はゆっくりと動きます。そのクリーブ現象を利用して駐車をする人も多いと思いますが、後方の車止めにタイヤが当たるのを確認してブレーキを踏みます。あるいは、バックモニターで白線の位置にきたことを確認してブレーキを踏みます。その際、ブレーキの位置にあると思っていた足が、たまたまずれていて、アクセルの位置に足があったりするとクルマを暴走させてしまったりするわけです。本人はブレーキを踏んだつもりでいますから、突然クルマが加速をしてしまうことが理解できずにパニックになってしまい、そのままさらに強くアクセルを踏んでしまうことになります。

3



強く踏むペダルはブレーキという脳の思い込み

普通に車を運転しているときに、アクセルを「強く踏む」という場面は減多にありません。それに対して、ブレーキは危険を回避するために「強く踏む」という場面がしばしばあります。そのため、ドライバーの脳内には「危険を感じたらペダルを強く踏む」という意識がインプットされています。ところが、アクセルに足を乗せているときにたまたま危険を感じると、今自分の足がどちらのペダルの上に乗っているかという判断をスルーしてしまうのです。そして、瞬間的に「危険を感じたらペダルを強く踏む」という脳のアウトプットにより、そのままアクセルを強く踏んでしまうわけです。このように踏み間違い事故は、脳の勘違いが引き起こしているものも多く、年齢に関係なく誰にでも起こり得ることなのです。運転の技術や理性や知識といったものではどうにもならない現象が、パニックになったときには起きてしまうのです。

最近では、衝突被害軽減ブレーキシステムを搭載した自動車が増えています。衝突する恐れがあると、警報音でドライバーに注意を喚起したり、エンジンやブレーキを制御して事故を未然に防いだりするというシステムです。しかし、道路の状況や天候などによってはうまく作動しないこともあるようなので、そういった装置によってペダルの踏み間違い事故を完全に防げるということではありません。いかなる場合でも「かもしれない運転」(危険予測運転)を心がけましょう。